

HIC通信

Vol. 99

January 2018
Hiroshima
International
Center



目次

P2 医療通訳特集
医療通訳を始めます

P5 事業報告
交流部
留学生活躍支援センター

P9 コラム
Hello Hiroshima
イベント・講座案内
Upcoming Event News

P10 ひろしま国際交流プラザ(HIP)

P11 JICALレポート
こちら JICA デスク

医療通訳を始めます

広島県内の外国人数は毎年増加傾向にあり、平成29年6月末現在、約47,700人の外国人が暮らしています。国籍別順位は、中国（約1万3,900人）、韓国・朝鮮（約8,600人）、ベトナム（約8,300人）、フィリピン（約7,200人）、ブラジル（約2,300人）の順です（法務省「在留外国人統計」）。在住外国人の増加に伴い、病院を受診する外国人も増えていますが、言葉の問題を抱えている方も少なくありません。言葉に不安を抱えているため、受診が遅れ、重症化してからの受診となることもあります。また病院にとっても、言葉が通じない外国人の診断で様々な困難に直面しています。そこで、ひろしま国際センターは、医療通訳事業の立ち上げに向け、医療通訳のニーズアンケートを実施し、医療通訳養成研修を始めました。

ひろしま国際センターでは、今後医療通訳の取組を充実させていきますので、医療通訳システムに関わるご関係者の皆さま、医療通訳にご関心のある方、是非今後ともご協力の程よろしくお願いたします。

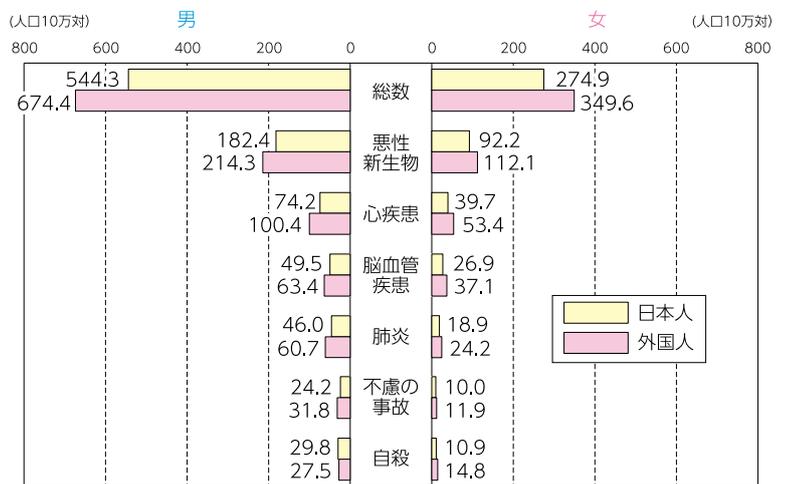


なぜ医療通訳が必要か？

右図の主要死因別年齢調整死亡率の国籍（日本・外国）別比較をみると、男性外国人の自殺以外、全て外国人の死亡率が高くなっています。その理由として、言葉の理由などにより、外国人が病院にかかりにくい事も関係していると思われます。医療通訳がないことは患者、病院、自治体が不利益を被ることになります。例えば、患者にとっては病状が伝え難く、説明が分からず不安な状態にあります。病院にとっては診断が円滑に行えない、治療効果が上がりにくい、不信・誤診によるトラブルとなります。自治体にとっては、治療の遅れ、不要な検査の増加、疾病の増加や社会の不安定化が自治体の負担の増加にもなっています。よって医療通訳をいれることは、患者が安心して治療を受けられ、医師も迅速で的確な診断が可能となり、自治体にとっては予算の財源負担軽減にもつながるでしょう。

（港町診療所（横浜市）、沢田貴志所長・医師）

主要死因別年齢調整死亡率の国籍(日本・外国)別にみた比較 一平成22年一

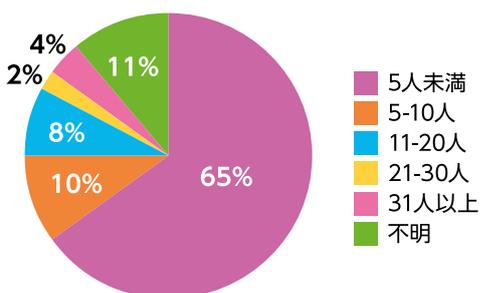


出典:厚生労働省「平成26年度 人口動態統計特殊報告」

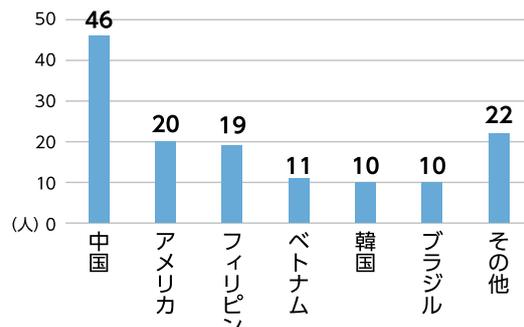
病院への医療通訳アンケート

平成29年7月から8月にかけて、ひろしま国際センターでは、医療通訳のニーズアンケートを広島県内の医療機関244病院、当センター来館の外国人100名にアンケートを実施しました。医療機関へのアンケートは244病院中91病院より回答がありました（回答率約37%）。ご協力くださった皆様、この場を借りて御礼を申し上げます。

Q1 外国人患者の受入れ状況(月間)



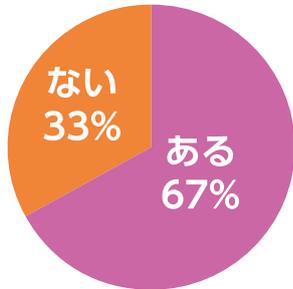
Q2 受入れた外国人患者の国籍



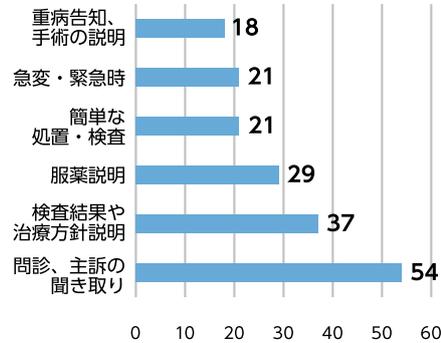
外国人患者の受入数（Q1）では、月間5人未満の病院が65%を占めました。他方、5人以上受入れている病院も、全体の4分の1を占めています。ある特定の病院では、月間300件外国人患者を受け入れていることも判明しました。外国人患者の国籍（Q2）では、判明の限り、中国、アメリカ、フィリピン、ベトナム、韓国、ブラジル国籍の患者が多くなっています。

ひろしま国際センターでは、医療通訳のニーズアンケートを広島県内の医療機関244病院、当センター来館の外国人100名にアンケートを実施しました。医療機関へのアンケートは244病院中91病院より回答がありました（回答率約37%）。以下、回答結果です。

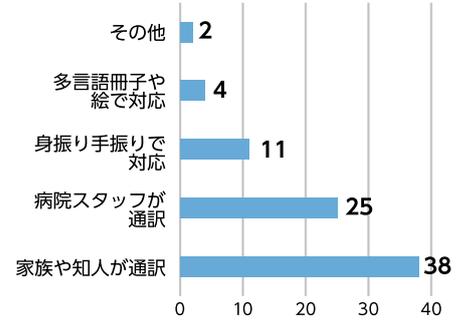
Q3 日本語での会話が困難な外国人患者が受診して困ったことがありますか。



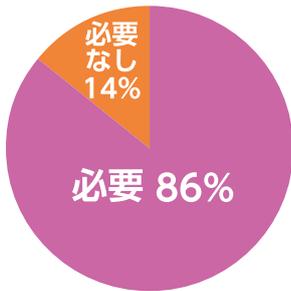
Q4 言葉が通じない時、最も困る医療場面は、どのような場面ですか。



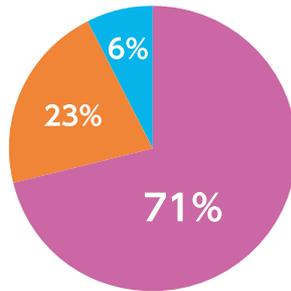
Q5 日本語が困難な時、どのように診療対応をされましたか。



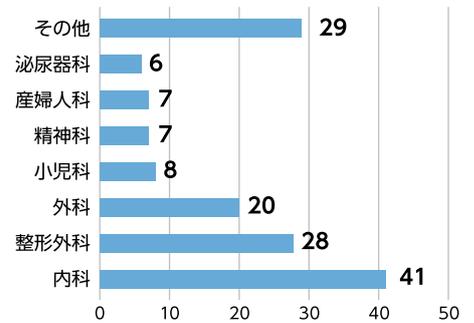
Q6 日本語が困難な外国人患者が安心して受診するために、通訳対応が必要ですか。



Q7 どのような通訳の形態が望ましいですか。



Q8 外国人対応をした診療科

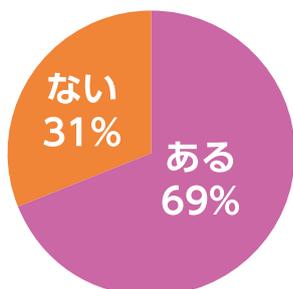


■ ボランティアによる通訳 ■ その他
■ 民間サービスによる通訳

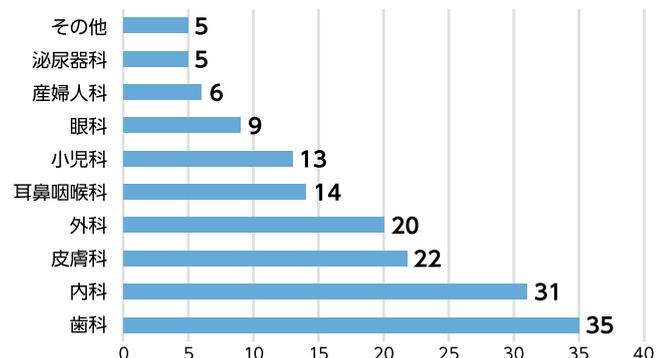
次に病院が言葉の問題でどれだけ困難に直面したかですが（Q3）、日本語での会話が困難な外国人の受診で、困った経験がある病院が67%を占めました。言葉が通じない事で最も困る場面として、初診時の問診や主訴の聞き取り、検査結果や治療方針の説明、服薬説明といった重要なシーンでの困難が目立つようです（Q4）。86%の病院が医療通訳が必要だと回答し、低廉なコストで抑えられ地域人材を活用したボランティア通訳に多くの期待を寄せています。外国人の対応をした診療科として多いのが内科、整形外科、以下Q8の通りです。よって、医療通訳者への研修は、この結果に踏まえた内容も必要となってきます。

外国人への医療通訳アンケート

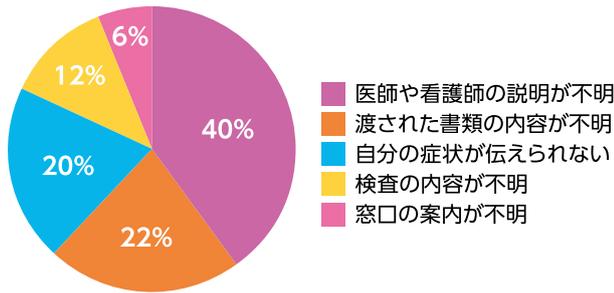
Q1 今までに病院やクリニックを利用したことがありますか。



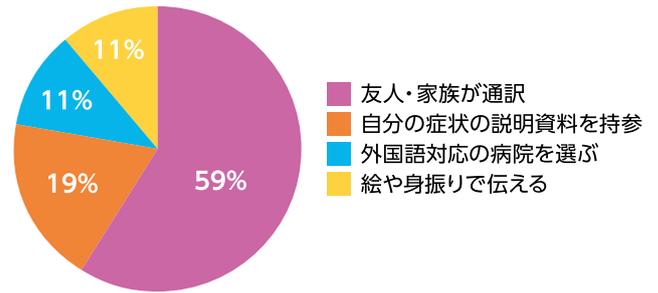
Q2 受診した診療科



Q3 病院やクリニックで、言葉が通じなくて困ったのはどのような場面ですか。



Q4 言葉の問題をどのように解決しましたか。



Q1によると、外国人の約7割が医療機関へ受診した経験があります。その内、最も多い診療科が歯科、その次に内科、皮膚科、外科、耳鼻咽喉科、小児科、眼科、産婦人科となりました。言葉が分からなくて困った場面としては、医療従事者による説明や文書が理解できない、自分の症状が伝えられない場面です。

アンケートの総まとめ

医療機関および外国人への調査からは、言葉の問題が大きいことが明らかになりました。一方で現状では、言葉の問題の解決方法として、言語ができる友人・家族に通訳をしてもらうという回答が約4～6割にも上りました。しかし、友人や家族が通訳に入ると、重要な告知等の場面で心情に流されて中立的に通訳ができなくなったり、訓練を受けていない場合、重要な言葉を見逃したりすることもあり、医師の診察判断に影響を及ぼすことがあるという問題があります。そのためにも、訓練を受けて正確な通訳ができる人材の養成と通訳サービス提供の必要性は大きいものと思われます。そこで、ひろしま国際センターは、今年度医療通訳を担う医療通訳サポーターの養成研修を行いました。

医療通訳サポーター養成研修

ひろしま国際センターでは、10月に42名の受講者に医療通訳サポーター養成研修を実施しました。前半2日間は座学で医療知識を学び、対象言語に置き換えるペアワークをし、後半2日間は模擬的に医師、患者の会話を通訳する模擬通訳を行いました。講師はRASCコミュニティ通訳支援センター（Cots）、北九州国際交流協会、りんくう国際医療通訳翻訳協会よりお越し頂きました。

研修の様子



日時	研修内容
10月14日	医療通訳の概要、多文化理解、倫理、医療知識（医療制度、医療費、身体組織）
10月15日	医療知識（身体組織、内科、泌尿器科、産婦人科、子どもの病気と関連知識）
10月20日	通訳技術の基礎、実践技術、模擬通訳（英語・中国語）
10月21日	模擬通訳（英語・中国語）選考・面接

医療通訳派遣システム

今年度は、医療通訳サポーター養成研修の選考に通過し、登録された医療通訳サポーターを対象に医療機関で実地研修を行い、医療機関からの依頼に応じて試験的に派遣します。来年度はスキルアップ研修を定期的実施しながら、本格的に県内の医療機関へ医療通訳派遣を行う予定です。今後関係医療機関や行政と医療通訳システムの仕組みにおいて協議を重ね、有償ボランティアの活用や医療通訳に係る費用の確保などいくつかの課題を乗り越え、本格運用に向けて進めていく予定です。今後ともご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。



* 医療通訳派遣に関するお問合せは、ひろしま国際センター交流部にご連絡ください。電話：082-541-3777

交流部

Report 1 「平成29年度 多文化共生 第2回テーマ別研修会」開催の報告

11月20日（月）に平成29年度多文化共生第2回テーマ別研修会を開催しました。

今回の研修は、「多文化共生の捉え方とその実現に向けての試みや課題」をテーマに、早稲田大学文学学術院教授 山西 優二さんを講師としてお迎えいたしました。

第1部では、「多文化」の意味やそのとりまく状況から、「多文化共生」とは何かを講義して頂きました。

第2部では、その実現へ向けてどのような試みがあるか、いくつかの事例を踏まえ紹介して頂きました。

第3部では、実際に自分たちの地域が抱えている多文化共生実現への課題や解決策について、グループごとに検討を行いました。

参加者からは、ことばの定義から改めて再確認できた、他市の取組が聞けて大変参考になったなどの意見があり、多文化共生について改めて考えることのできた大変有意義な研修会となりました。



交流部

Report 2 「国際交流・協力の日2017」に参加しました

11月19日（日）に広島国際会議場（広島市中区）にて「国際交流・協力の日2017」（主催：公益財団法人広島平和文化センター）が開催されました。このイベントは、在住外国人を含む市民のみなさんに、楽しみながら異文化に触れ、国際交流・協力について考えるきっかけ作りの場となることを目的としており、今年で18回目の開催となりました。

当センターは、昨年に引き続き、JICA中国、青年海外協力協会と一緒に「地球ひろば」を出展しました。

「地球ひろば」には、多くの家族連れや外国人の方が次々と来場され、当センターが運営した、「外国の人とお話しよう」コーナーでは、学生や子どもたちが、ボランティアの外国人の方々と楽しくお話をする様子が見られ、終日賑わいました。

来年は、さらに新しい企画を用意し、皆様に楽しんでいただきたいと思いますので、ご期待ください。



交流部

Report 3 外国人相談窓口を実施しています

ひろしま国際センターでは、外国人が広島で快適に暮らせるように、外国人への相談対応や日常生活に関する情報提供を行っています。外国人相談窓口は、毎週木曜日10:00～12:00、13:00～16:00に実施しており、在留資格、社会保険や仕事・労働の問題に対応できる専門相談員（行政書士、社会保険労務士）及び英語・韓国語・フィリピン語の3言語の通訳相談員が勤務しています。

平成29年度上半期（4月～9月）には、122件の相談がありました。相談内容で最も多いのが在留資格、次に仕事・労働の問題、教育、医療・福祉、社会保険の順です。最近は医療通訳の依頼や外国にルーツをもつ子どもの入学・進学・日本語教育に関する相談が増えています。

在留資格、社会保険や仕事・労働の問題で困っている外国人が周りにいらっしゃったら、是非外国人相談窓口をご紹介します。相談窓口の電話番号：0120-783-806、082-541-3888



交流部

Report 4 留学生奨学金 第2回交流会を開催しました

12月4日（月）に平成29年度第2回奨学生交流会を行いました。
 この交流会は、奨学金の受給者と協賛企業・団体との交流の促進を目的として、外国人留学生向けに年2回開催しています。
 交流会に先立ち、10月から新しく奨学金受給者となった9名に奨学金決定通知書の授与を行いました。続いて開催された交流会では、留学生、協賛企業・団体の関係者および大学関係者の皆様合わせて100名を超える参加者が一堂に会し、これまでの学生生活で取り組んだこと、奨学金をどのように役立てているか等を語り、親睦を深めました。また、広島大学大学院の李 辰瀟さんによる中国の伝統楽器「二胡」の演奏が披露され、会場は大いに盛り上がりました。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。



交流部

Report 5 ボランティア通訳ガイド講習会を開催します!

ボランティア通訳ガイド講習会（英語）を2月10日（土）に開催します。
 講師には、多くの通訳ガイド実績を持ち、独自の指導方法でも定評のある、ひろしま通訳・ガイド協会理事 畝崎 雅子さまをお迎えします。
 今年のテーマは外国人観光客の方にも人気の高い「縮景園と世界記念平和聖堂」です！
 みなさまのご参加をお待ちしております。（詳細はホームページでご確認ください。）
 日時：2018年2月10日（土）14:00～17:00
 場所：ひろしま国際センター 交流ホール
 定員：50名
 参加費：無料



交流部

Report 6 世界エイズデー記念イベント 「映画上映&監督トーク」を行いました

12月1日は世界エイズデーです。世界エイズデーは世界でエイズの蔓延防止とHIV陽性者への差別・偏見をなくすために、WHO（世界保健機関）が1988年に制定しました。そのため、12月1日前後に、世界で世界エイズデーのイベントが繰り広げられています。ひろしま国際センターでは、12月2日（土）に世界エイズデー記念イベントとして、映画上映&監督トークを行い33名の方にご参加頂きました。本イベントではHIV/エイズに関するクイズ、タイのHIV陽性者当事者が社会を変え、社会に共生し、社会に貢献する様子を12年間描いたドキュメンタリー映画「アンナの道～いのちを紡ぐ～」の上映、直井里予監督による映画にまつわるお話を伺い、タイの経験から日本の社会をもう一度見つめなおすきっかけとなりました。



Report 7 「マックスバリュ西日本株式会社」へ企業見学に行きました

11月7日（火）に「マックスバリュ西日本株式会社」へ、留学生の企業見学で行きました。

会社のことはもちろん、小売業界について、商品配置のポイントなど、色々な説明をしていただきました。当日は毎週恒例の特売セール「火曜市」が開催されており、バックヤードでは大量の生鮮食品が行き来する様子も見学させていただきました。その後は本社の管理部門を見学し、パーティションの無い大きなワンフロアのオフィスに、留学生も驚いている様子でした。普段中々見学できない場所なので、大変有意義な経験ができたことと思います。ご協力いただきました「マックスバリュ西日本株式会社」の皆さま、ありがとうございました。



当センターでは引き続き、外国人留学生を対象とした企業見学を受入れてくださる企業様を募集しております。ご興味がありましたら、お気軽に当センターまでお問い合わせください。よろしくお願いいたします。

Report 8 外国人留学生のための「就職活動実践セミナー」開催中です

日本での就職を希望する留学生を対象とした「就職活動実践セミナー」を今年度も開催しています。セミナーは、広島県内全域の留学生が受講できるよう、広島、東広島、福山の3会場で実施しています。今年は昨年を上回る申込みがあり、中でもベトナム人留学生の参加が増えています。

母国と日本では就職活動のやり方が全く異なります。留学生にとって、新卒一括採用という日本流の就職活動を理解し、その流れに遅れずついていくことは一苦労です。自己分析、業界・企業分析、応募書類の書き方から面接訓練、そして日本人学生には無い就労資格の変更についてを、全3回のセミナーでしっかり学びます。10:00~16:00と長時間のセミナーですが、希望する企業の内定獲得のため頑張っています！！



Report 9 「ジョブフェアオンキャンパス」の開催案内

今年度も、文部科学省「住環境・就職支援等留学生の受入れ環境充実事業」の一環として、留学生と企業のための「ジョブフェアオンキャンパス」を県内2会場で開催します。12月22日(金)に広島大学東広島キャンパスが来たる1月19日(金)に福山大学宮地茂記念館において、外国人留学生(含む専門学校生)、大学教職員、企業関係者を対象に開催します。

内容は2部構成で、第1部は「グローバル人材活用セミナー」、第2部はワークショップ「業界研究会」です。第2部のワークショップでは、業界別に6ブースとテーマ別に2ブース（元留学生(OB/OG)交流と在留資格研究)を設置。日本での就職を考える外国人留学生のために、また、留学生の採用に関心のある企業の皆様には絶好の機会かと思えます。

多数の方のご参加をいただきますようご案内申し上げます。

当日は、郊外からの無料送迎バスを運行しますのでご利用ください。(事前申し込み制)

Report 10 留学生交流イベント「竹原さんぽ」を開催しました

11月18日（土）に「竹原さんぽ」を開催しました。広島地域留学生会が主催し、県内の留学生、日本人学生53名が集まりました。

留学生と日本人学生と一緒にグループを作り、それぞれのグループで竹原に関する8個のミッションやクイズに挑戦しました。

例えば、「映画のロケ地になった場所は？その映画のタイトルは？」、「ウサギのかまぼこを食べて感想を動画にとれ！」、「このマンホールを探せ！」などなど。ミッションクリアしたら証拠となる写真や動画を、Facebookのイベントページに投稿していくルールで、楽しそうな投稿がたくさん届きました！

みんな一生懸命ミッションに取り組んでくれ、ほとんどのチームが全部のミッションをクリアしてくれました。

今回のイベントで、普段はなかなか出会う機会のない他校の友だちもでき、秋の竹原を楽しむことができたのではないのでしょうか？今後も広島地域留学生会では、留学生、日本人学生、地域の人たちが交流できるイベントを企画していきます。お楽しみに！



Report 11 「留学生による伝えるHIROSHIMAプロジェクト」を開催します！

主に広島県外の留学生を対象として、「留学生による伝えるHIROSHIMAプロジェクト」を2018年3月14日（水）～16日（金）に2泊3日で開催します！平和公園や広島平和記念資料館を見学し、平和と復興をテーマとした講演、ワークショップなどを行います。また、広島ならではのお好み焼き体験や、マツダミュージアムの見学も予定しています！留学生のみならず、春休みを利用して広島を体験し、日本各地から集まった学生と交流してみませんか？

詳細・申し込み方法については、これからホームページなどお知らせしていきます！

留生活躍支援センター

HP：<http://www.int-students-hiroshima.jp/>

留生活躍支援センター

Facebook：<https://www.facebook.com/hints.sc>



HP



Facebook

昨年度の様子



Hello Hiroshima

Vol.99 January 2018



The International Festival Daniel Mackey

Just the other day, I assisted at the International Festival held at International Conference Center Hiroshima on Nov. 19. The festival, which takes place both inside and outside the building, showcases the activities of a large number of international groups and organizations based within Hiroshima Prefecture through various corners where they introduce their activities and allow visitors to experience foreign culture right at home. Many international students also set up food booths outside to give people a taste of their country. On top of this, there is always some type of main attraction involving a well-known performer. This year it was the Nigerian-born TV personality known as “Bobby Ologun” (aka Bobby), who I remember seeing appear on Japanese TV quite often during my student days in the distant past but not so much nowadays because I don’t own a TV! (Crazy, I know.)

Unfortunately, I wasn’t able to take in his show at the festival because I was otherwise occupied with my own duties, which mainly involved conversing with passersby at the corner set up by my workplace, the Hiroshima International Center, which itself joins the festival each year to inform visitors about its activities and encourage interaction between locals and foreign residents. Some people simply relish the opportunity to speak English, while others are

perfectly content to talk in Japanese about their overseas experiences or other interests. The visitors to our corner are often a very diverse lot, consisting of anything from middle schoolers up to advanced seniors and a little bit of everything in between.

Based on my experiences from this year and the last, I remember chatting about everything under the sun, from heavy topics such as wartime conditions and hard labor to which country has the best Disney Land. But the topic that usually resonates most with me is, of course, “which TV shows are you watching?” Because, let’s face it, we live in a golden age of TV right now. And thanks to the proliferation of high-quality and easily-accessible streaming services, me not actually owning a TV is no excuse to miss out on, for example, a certain popular show featuring a strikingly blond dragon-riding queen. And if you must ask, yes, I did indeed read the books first.

But I digress. The International Festival is not only a great opportunity for me to speak to people from every walk of life who I would otherwise never have met but, by being able to speak freely and candidly on any topic, I feel like this event really makes a positive contribution to the promotion of mutual understanding on a grassroots level. Next year, I plan to attend earlier so I can take in all the other attractions and get some hands-on experience at corners that offer interactive activities, including calligraphy and assorted games. I highly recommend everyone to come check it out if you haven’t already!

Upcoming

Event News

第3回国際交流茶会

外国人が日本人と一緒に茶道の経験をしたり、津軽三味線を聞いて日本文化に触れ、交流する。

- 日 3月4日 (日)
- 時 9:30~14:00
- 場 尾道市 光明寺
- 定 100名
- 費 茶券 2,000円
- 問 フィーラス華 担当者: 杉谷
TEL: 090-7994-5461



HICからのお知らせ

ワンペア日本語学習では日本語をお勉強したい外国人の方が日本語を教えるボランティアの方と一緒に日本語をお勉強します。

この日本語学習は国際交流や国際理解をするためにあります。日本語をお勉強したい外国人の方はひろしま国際センターにきてください。

また日本語を教えるボランティアにご興味のある方はひろしま国際センターにご連絡をください。日本語ボランティアは経験や資格はいりません。ぜひ日本語のお勉強をいっしょにたのしんでください。

私たちはみなさんの広島生活がいいものになれることを願っています。



国際交流拠点

「ひろしま国際プラザ(HIP)」を満喫しよう!

東広島市鏡山三丁目の「ひろしま国際プラザ(HIP)」は、広島県と独立行政法人国際協力機構(JICA)が平成9年に共同設置した施設です。ここには、毎年度約100ヶ国から1,000人余りの外国人が訪れ、滞在しています。

ひろしま国際センターでは、このHIPにおいて、さまざまな研修を行うとともに、研修員と地域の皆さんとの交流事業を行っています。

新しい年を迎え、平成29年度も残すところ3ヶ月となりました。この期間中に、HIPで最大級のイベントを2つ開催します。

いずれのイベントにも、HIPに滞在中の世界各国の研修員が多数参加し、彼らと交流するプログラムを用意します。

ぜひ参加して、県内有数規模の国際交流フェスティバルを体感し、楽しんでください。



世界まるごと体験デー

日本人や外国人、お子様から年配の方まで、あらゆる皆さんを対象に、世界の遊びや文化を楽しく体験しながら、国際理解を深めることができるイベントです。

今回はHIP開設20周年を記念し、女優 紺野美沙子さんの講演会を同時に開催する予定です。

【開催日時】平成30年2月10日(土曜日)10時から14時まで

紺野美沙子さんの講演会は13時20分から予定しています。

子ども英語村

3歳から小学生までの日本人の子どもを対象に、全ての活動を、原則、英語で実施します。

英語や海外の文化に関心を持つ子どもたちが、英語で様々なミッションに挑戦し、国際理解の扉を開いていくことができるイベントです。

【開催日時】平成30年3月3日(土曜日)10時から15時まで

※いずれのイベントも、後日、詳細をひろしま国際プラザのホームページ(<https://hiroshima-hip.or.jp/>)に掲載します。



「ひろしま国際プラザ」開設20周年記念事業

公益財団法人ひろしま国際センター 国際理解講座

「紺野美沙子さんと国際協力」

国連開発計画親善大使として、20年近くにわたって様々な開発途上国を訪問されてきたご経験から感じたことについて、ご講演いただきます。

日時 2月10日(土) 13:20~14:50(開場12:50)

共催 独立行政法人
国際協力機構(JICA)中国国際センター

会場 ひろしま国際プラザ(東広島市鏡山3-3-1)

申込方法 要予約 ※参加費無料 定員100名

メールに参加されたい方のお名前、性別、年齢、お住まいの市区町村をご記入の上、

hiccbucho@hiroshima-ic.or.jp

までお送りください。

先着順とし、定員に達し次第、締切とさせていただきます。

講師紹介

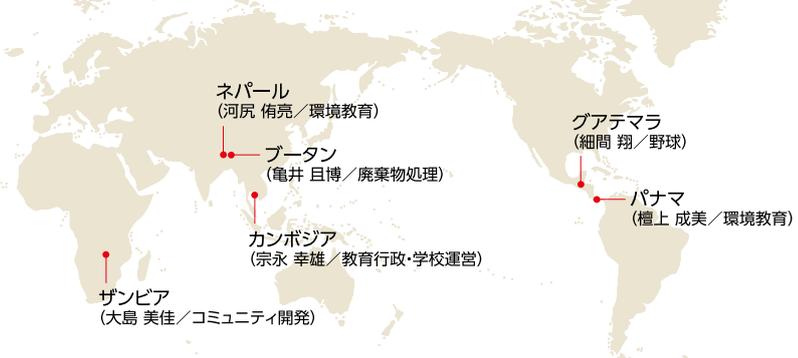
紺野 美沙子

東京生まれ。俳優として、テレビ・映画・舞台で活躍する一方、1998年に開発途上国の援助機関である国連開発計画(UNDP)の親善大使に任命され、これまでに10の国と地域を訪問。日本各地で講演会を開き、開発途上国の現状などを伝えている。著書に、親善大使として訪れた国についてつづった『ラララ親善大使』(小学館刊)がある。



広島から世界へ! いつか世界を変える力になる!

広島から世界へ!2017年12月下旬~2018年1月上旬より、
広島県出身のJICAボランティア6名が世界へ向けて出発します!



■現在赴任中の広島県出身 JICAボランティア(名)

区分	男性	女性	合計
青年	19	24	43
シニア	8	2	10
日系青年	1	1	2
日系シニア	0	0	0

平成29年10月31日時点

JICAボランティア <青年海外協力隊とは!>

「自分の持っている技術・知識や経験を開発途上国の人々のために活かしたい!」という強い意欲を持つ20歳~39歳の日本国籍を持つ方が対象のボランティアです。
派遣は原則2年間。衣食住を現地の人とともにしながら、互いに理解を深め、途上国の発展を支援する。そんな現場レベルのボランティアに、あなたも参加してみませんか!?
40歳~69歳の方を対象とした「シニア海外ボランティア」もあります。

帰国隊員レポート ~ナミビア篇~

佛園 公宏さん



ナミビア

アフリカ南西部に位置する共和制国家
【概要】面積：825,418平方キロメートル
人口：2,260,000人
首都：ウィントフック
公用語：英語
宗教：キリスト教

現地での活動内容

首都ウィントフックから東へ約200km、ゴバビスという町の役場で、土木技師として活動しました。主に、開発地など新しく上下水道管を布設する工事の設計を行いました。また、現地の路上には非常にゴミが多いため、「ポイ捨てやめよう」などのポスターを作成し、環境啓蒙活動も行いました。ごくまれに、既設の下水道管が破損した時や、マンホール内を清掃する時に応援を頼まれ、汚水まみれの活動をしたこともありました。

ナミビアってこんなところ!

ナミビアには2つの世界遺産があります。世界最古の「ナミブ砂漠」と数千点の壁画のある「トゥウェイフルフォンテン」。この他にも、アフリカビッグ5に会えるかも?の「エトーシャ国立公園」、昔ながらの狩猟生活を続け、世界最古の民族といわれる「サン族」、世界で最も美しい裸族といわれる「ヒンバ族」、世界第二位の大きさを誇る「フィッシュリバーキャニオン」。まだまだ観光名所はあります!

日本人にはあまり馴染みのない国かもしれませんが、実はヨーロッパからの旅行者は、かなり多いんですよ!



▲世界一美しい裸族ヒンバ族

▲同僚との集合写真



▲ナミブ砂漠

佛園 公宏さん プロフィール

- ・熊野町出身。
- ・山口大学卒業後、熊野町役場で6年間、土木技師として勤務。
- ・2015年9月から、ナミビア国ゴバビス町役場において土木技師として活動。

参加のきっかけ

上下水道分野では、日本の多くの技術力が輸出されています。また、多くの日本人技術者が様々な国で活躍しています。そのことを知った時に、私も、自分の培ってきた技術力で国際協力に携わってみたい、また、そこまで通用するのか試してみたい、と思い応募を決意しました。

参加して思うこと

現地では電気・水道などのインフラサービスを受けることのできない住民が多くいます。それでも、その人達は、笑顔で楽しそうに日々生活しているように見えました。そのことから、幸せに生活する上で、インフラサービスは絶対不可欠なものではないのかも、と感じました。しかしながら、私が携わった活動が、彼らの生活水準を、少しでも向上させることができたことは誇りに思います。

ナミビアの食事

「パップ」や「ポリッジ」と呼ばれるトウモロコシの粉を湯で練ったものを、肉や魚のスープなどと食べるのが一般的です。とても美味しいです!変わり種としては、カイコのような虫をそのまま揚げて食べる「モバナワーム」、羊の頭を丸ごと煮込んで脳みそを食べる「スマイリー」(煮込んだ後、笑っているように見えるため)。どちらも慣れてしまえば、お酒のアテに最適です!

もちろん、ピザやステーキ、パスタなどの普通の料理も食べられていますよ!



▲牛ホルモン煮込みとマッシュドポテト

▲魚とサラダ

▲パップとチキン

▲モボネワーム

「グローバルリレーションズ・プログラム (GRP)」参加者の声

LIFE IN HIP:

Uddin Mohammed Rashel (Bangladesh)

I had little experiences of visiting and joining different activities in Hiroshima International Plaza (HIP) before moving here and I wish if I could be a part of this beautiful community. My desire comes true and now I am living in HIP which is the most incredible experience of my life.

First of all, the impressive staff members of HIP welcomed me with a big smile and helped me to settle down my life by introducing the facilities by hand. Every staff here seems to my family member who is taking care of me in every sphere of my living. I met with a group of cordial friends from different countries with whom I feel myself very comfortable and it allow me to expand my horizon.

Moreover, the impressive living environment make me confident and wide range of facilities such as calm reading room, resourceful library, well-organized gymnasium, equipped cooking room make my life easy and enjoyable. I can go to the reading room even at the midnight to accomplish my assignment with the facilities of internet and printer. I can discuss freely during the monthly meeting and get the updates.

Finally, I can avail wide range of sport facilities here which permit me to invite my friends in the weekend. It help my socialization process as well as my physical health a lot. I intensely believe that this is the most beautiful and disciplined place to live in.



グローバルリレーションズ・プログラム (GRP) とは?

ひろしま国際プラザに入居して大学に通いながら、国際社会で活躍できる「実践力」を身につけることを目的とした、外国人留学生のためのプログラムです。現在、10ヶ国19人の留学生が参加しています。

そのほか、レジデントアシスタントの日本人学生2名が入居し、彼らを支援しています。

★入居使用料
1泊770円 管理費2,500円/月
月額24,060円~26,370円(水道光熱費込み)

★現在、今年春からの入居者を募集中です。詳しくは「ひろしま国際プラザ」のHPをご覧ください。

賛助会員を募集しています!

HICでは幅広く市民の皆さんに協会の事業についてご理解、ご支援いただくために賛助会員制度を設けています。賛助会員の皆さまには、協会機関誌など国際交流情報やイベントのご案内をお送りさせていただきます。この制度を通して言葉や習慣の違いを乗り越え、心を通い合わせることでできる豊かなまちづくりに一緒に参加しませんか?

皆さまからご支援いただく賛助会費(※)は国際交流事業、国際理解教育事業、多文化共生事業に使わせていただいております。

■入会資格

協会の趣旨に賛同していただける個人、法人・団体

■年会費

個人一口 2,000円(一口以上)

法人・団体一口 10,000円(一口以上)

※当協会に対する賛助会費については税法上の優遇措置があります。

交流部&留学生活支援センター

〒730-0037
広島市中区中町8-18 広島クリスタルプラザ6F
TEL.(082)541-3777 FAX.(082)243-2001
E-mail/hic@hiroshima-ic.or.jp

■開館時間

月~金 10:00~19:00 土 9:30~18:00
日・祝日および年末年始(12/28~1/4)はお休みです。

研修部(ひろしま国際プラザ)

〒739-0046
東広島市鏡山三丁目3-1 ひろしま国際プラザ内
TEL.(082)421-5900 FAX.(082)421-5751
E-mail/hicc@hiroshima-ic.or.jp

■開館時間

(情報センター・図書室・NGO交流室) ※情報センター・図書室は平日
12:30~13:30閉館です。臨時
月~土 10:30~19:00※ に閉所する場合は、HPで随時お
知らせします。
日・祝日および年末年始はお休みです。

